

Weekly Bulletin 2015-2016



RI会長
K.R. "ラビ" ラビンドラン

世界へのプレゼントになろう
静岡東ロータリークラブ

会長 / 杉山明喜雄 幹事 / 新聞桂子

事務局 / 静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会会場 / ホテルアソシア静岡 例会日 / 毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長
杉山明喜雄

第 2753 回例会

(静岡市内7クラブ合同例会)

平成 28 年 2 月 18 日 天候 晴れ

《司 会》 浅野 裕史 君(静岡東 RC)

《合 唱》 「君が代」
「我等の生業」

《講 師》 同志社大学
大学院グローバル・スタディーズ 研究科
教授 内藤 正典 氏

《参加クラブ会長紹介&出席報告》

参加クラブ会長

- | | |
|------------|-----------|
| ・ 静岡 RC | 疋野 智男 会長 |
| ・ 静岡南 RC | 竹野 雅己 会長 |
| ・ 静岡日本平 RC | 芦澤 政弘 会長 |
| ・ 静岡西 RC | 金原 康之 会長 |
| ・ 静岡中央 RC | 山梨 由博 会長 |
| ・ 静岡北 RC | 津田 薫 会長 |
| ・ 静岡東 RC | 佐橋 徹 会長代行 |

各クラブの出席数

- | | |
|------------|-------|
| ・ 静岡 RC | 51 名 |
| ・ 静岡南 RC | 15 名 |
| ・ 静岡日本平 RC | 29 名 |
| ・ 静岡西 RC | 23 名 |
| ・ 静岡中央 RC | 28 名 |
| ・ 静岡北 RC | 22 名 |
| ・ 静岡東 RC | 43 名 |
| 合 計 | 211 名 |

《ホストクラブ会長代行挨拶要旨》



本日はご多忙中にもかかわらず市内7クラブ合同例会に御出席いただき誠にありがとうございます。おかげさまで200名を超える会員に御出席いただきました。

ホストクラブとして深く感謝申し上げます。なお本日の座席は各委員会ごとのテーブルとさせていただきます。日頃のロータリー活動に向けて各クラブと情報交換を行い、今後の活動に活用されることを願っております。

《講 演》

「中東の崩壊とパリ同時多発テロ事件」

内藤 正典 氏

私は東京出身で一橋大学の大学院教授でしたが2010年に同志社大学・大学院がグローバル・スタディーズ研究科を作ってから京都に移り現在あちこちで講演を



させていただいています。

本日のお話の内容は決して明るい話ではないが「中東の崩壊」と「シリアの内戦」「イスラム国のテロ」そして「難民問題」です。

昨年夏以降メディアで「大変な数の難民が欧州に押し寄せた」というニュースが世間を騒がせた。昨年秋までで既に100万人近い『難民』が欧州を目指していたが、欧州の人々はそれを『移民』と呼んでいた。

現在シリアではアサド政権による恐怖の統治が行われているが

シリア内戦で亡くなった方は一説には47万人とも言われている。終わらない内戦と近年のイスラム国の台頭が難民を作り出しているといわれるが

実際はそうではない。難民はISが台頭する前から300万人ほど存在していた。安倍総理はISの台頭で移民が生じたためISと戦う国に

最悪の人道の危機

- シリア難民 450万人 国内避難民760万人
- 海路欧州へ流入した難民 680928(死者3175)
- シリア内戦の犠牲者 約220000人(47万とも)
- 終わらない内戦、「イスラム国」の台頭
- 難民に紛れ込むテロリスト

支援を行うと表明した。しかしアサド政権の圧政に反対する反政府勢力も、もともとは一般市民であり、その弾圧のためのアサド政権の無差別攻撃に市民が巻き込まれ、すでに 2300 万人の国民の半分は住居を無くしたか若しくは逃げ惑っている状態とも言われている。彼らは安全を求めて難民となった。難民は IS 台頭以前からレバノン、トルコ、ヨルダン等に向かっていた。近年その難民がギリシャを渡って欧州へと向かっているが、その難民にテロリストが紛れ込み、パリでテロを起こした。誤解すべきでないのは、決して難民がテロ化したわけではない。

中東の崩壊が進んでいる。シリアは内戦、リビアも分裂、イラクも分裂している。アフガニスタンは全く



治安が回復しない。イエメンも内戦でソマリアは事実上国家が崩壊、ナイジェリアでもボコ・ハラムの暴虐。エジプトも軍事クーデターで生

まれた政権であり、いずれ治安悪化につながるだろう。サウジとイランは 1 月に入って国交断絶した。サウジはスンナ派の国、一方でイランはシーア派の国、単に宗派の違いだけではなく政治的な要素が対立の原因で、一触即発となっている。

現在ロシアは IS への攻撃を名目にシリア国内での爆撃を行っているが、実際はアサド政権への支援のため反政府勢力を壊滅することが目的。シリア北部はトルコ系の民族も存在しており、これにはトルコも反発を強めていた。10 月のトルコによるロシア戦闘機爆撃もこういった背景から起こった。現状ではトルコとロシアは国交断絶までには至っていないが、仮にロシアがトルコを攻撃、もしくは先日のトルコでのテロもシリア系のクルド民族の犯行とのことで、今後トルコがいよいよシリアに進軍しロシアとの交戦が生じればトルコは NATO 加盟国であるため NATO に対する集団的自衛権の行使を通じて第 3 次世界大戦に発展する恐れに繋がりがかねない。

終息の気配がないシリア内戦だが、もともとシリア



は冷戦時代からロシアの領分だった。ロシアにとってシリアの基地を失うことは地中海を通してアフリカへ出ていく前線基地を失うことを意味する。そのためにもシリアにある基地権益は絶対に手放せない。アサド政権側にはロシアをはじめとしてイラン、ヒズボラ、北朝鮮等が支援している。一方で反政府側には米国、トルコ、サウジ、カタールが支援を行っている。国際的にも大きなリスクを抱えている地域である。

次にイスラム国だが、思想はイスラム法による統治を目指しており、その主権は神(アッラー)の手にあり国民には無いとの考え方。イスラム世界で最悪の「病理」とも言えるが、実はイスラム世界での支持は意外にも少なくはなく、熱心なイスラム教徒で暴力やテロに全く関係のない人々からの支持を受けていることも事実。本来イスラム教の教えでは弱者は助けるべきであり、これは神が定めたことだ。商売で儲けることは構わないが、儲けたらその一部は神に差し出さなければならない。それが貧しい人の手に渡り社会が回る仕組み。ところが今の世界はそうではない。富の再配分が行われぬことにイスラム庶民の不満がたまっている。「もっとイスラム的に世直しすべき」との考え方が IS への支持につながっている。「アル・カイダ」は欧米を狙うテロ組織だが「イスラム国」は、まずイスラム教徒が敵で次に欧米を狙うテロ組織との位置付け。

難民は密航業者の手配するボートでギリシャを目指している。お金のない難民に「浮かない粗悪な救命胴衣」や「船外機の無いゴムボート」を売る等、悪い商売が横行。お金がない人は浮き輪で渡る。でも子供たちの顔は明るい。ギリシャに渡れば希望が待っていると信じている。しかし現実には死の航海だ。昨年秋時点まででトルコは既に 250 万人の難民受入れを行い不平も言わず耐えていた。一方で欧州では高々 100



万人の押付け合いを行っていた。トルコだけでなくヨルダンとレバノンにもそれぞれ 100 万人を超える難民が溢れており、レバノンの国連難民高等弁務官もこのままでは食料が尽きると警告を発していた。国際社会は時々資金援助を行うのみ。難民はシリアから発生しており本質は「内戦の停止」あるいは「IS の壊滅」が解決策だ。

昨年 9 月にゴムボートで対岸のギリシャに密航しようとして死亡した難民の子供の写真が世界中に配信された。写真の見出しは「世界よ恥を知れ」だった。

ここで初めて欧州の人々は押し寄せた人々が『移民』ではなく『難民』であることを認識する。そもそも移民は拒否できるが難民は拒否できない。ドイツの難民受け入れはドイツ憲法(ドイツ基本法 16 a 条)に「(迫害を受けた世界中の誰でも)ドイツに庇護を請求できる」との規定があるからだ。日本の憲法第 9 条(戦争放棄)と同様にドイツでは第 2 次大戦後の基本理念となっている。内戦が続く限り難民流出は続く。2 月にロシアがシリア北部に絨毯爆撃を行い、また 10 万人の難民がトルコ国境に押し寄せた。しかしトルコはついに国境を閉じた。米独は国境を開けるよう要請したがトルコは首を縦に振らない。シリア内戦の解決に向けて何もしない国際社会への苛立ちが表れている。